

# AI POWERED ENTERPRISE VALUE COCKPIT

## VIDEO TRANSCRIPT

SDGsに代表されるように、日本でも持続可能な経営が注目されています。企業においては、**ESG**を企業戦略の中心に据え、社会的責任を果たすことが求められるようになりました。

しかし、いくら良い取り組みでも、やみくもに導入するだけでは、長期的な企業価値向上は望めません。今求められているのは、従来の**CSR**活動から一歩進み、事業と紐づけた**ESG**の取り組みです。

**ESG**を企業戦略の中心に位置付けるには、株主に向けて利益を示していくこれまでのシェアホルダー資本主義からステークホルダー資本主義へとシフトし、顧客のみならず社員や社会を含めた関係者に対して、**360度**で価値を提供していくことが重要です。

この全方位型経営を実現するためには、データに基づき、客観的に自社の立ち位置を把握した上で、どの**ESG**の取り組みに注力すべきかを見える化・特定することが鍵となります。

アクセンチュアの**AI POWERED Enterprise Value Cockpit**は、財務指標と**ESG**指標のデータを統合、可視化することで、自社の業界内での立ち位置が把握できます。

また、どの**ESG**指標がどれだけ企業価値にインパクトをもたらすか因果関係が明らかになるため、確実に企業価値を向上させる施策がわかります。

データに基づき自社に最適な**KPI**を設定・追求することで、あるべきデータドリブンな**ESG**経営が可能となるソリューションです。

自社の現時点での取り組みがどのような評価を得ているのか、自社の**ESG**の取り組み度と株主評価を数値で可視化します。そうすることで、自社の立ち位置を客観的に把握することができます。

また、自社が所属する業界において、**ESG**のどの取り組みを伸ばせば企業価値向上効果が得られるのか、因果関係が分かることで、効果的な**ESG**目標の設定が可能になります。

**ESG**指標をデータドリブンに決定、実行、そして発信することで、市場からの正当な評価獲得にもつながります。

保科学世：**ESG**施策が企業価値にどのようなインパクトをもたらすのかを可視化するために、過去**12**年間、**468**種類のデータを用いて、**AI POWERED Enterprise Value Cockpit**を構築しました。このサービスを活用することにより、各**ESG**施策が企業価値に与える影響を可視化し、その効果をシミュレーションすることで、企業価値を最大化する**ESG**戦略が策定可能になると考えております。



武田秀太郎：今回アクセントチュアと九州大学が共同開発をした**AI POWERED Enterprise Value Cockpit**ですが、企業の非財務指標と企業価値、この間の因果関係とその度合いまでを明らかに示す、今までにないようなアルゴリズムです。こうしたアルゴリズムをご活用いただくことによって、**ESG**に取り組まれる企業の方々へのベネフィットの明確化、さらには日本社会全体として**ESG**に取り組むことの文化の醸成、そしてひいては持続可能な社会への発展、こうした期待が貢献できると思っています。

日本においては、財務指標自体は依然として株主評価に強い影響を持っていますが、日本企業全体の傾向として**S**の項目が企業価値に強い因果関係にあることがわかっています。

特に、女性・**LGBTQ**などの多様性に関する取り組み、また在宅業務・育休制度などの働きやすさが企業価値に直結していることがわかっています。

特定・可視化・予測することで、注力すべき**ESG**指標がわかり、効果的な**ESG**目標設定を可能にします。**AI POWERED Enterprise Value Cockpit**は、データに基づいた、正しい経営判断を促し、長期的な企業価値向上のために、財務効果も得られる**ESG**経営をサポートします。

他の**AI POWERED**サービスとも連携することで、ビジネスの上流から下流まで、全社的なデータドリブン経営が可能となります。

保科学世：今後シミュレーション機能を強化するとともに、打つべき施策を推奨する機能の拡張も進めてまいります。

このサービスが幅広く使われることにより、日本社会で効果的な**ESG**経営が一層推進されることを期待しています。

アクセントチュアは、お客様とともに持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

Copyright © 2022 Accenture  
All rights reserved.

Accenture and its logo  
are registered trademarks  
of Accenture.